

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 8 月 7 日現在

機関番号：32727

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390414

研究課題名(和文)被災家族の家族システムの再構築とシームレスな家族再構築支援プログラムの検討

研究課題名(英文) Discussion on rebuilding of family system for disaster-affected families and seamless support program for the families

研究代表者

久保 恭子(木村恭子)(KUBO, KYOKO)

横浜創英大学・看護学部・教授

研究者番号：10320798

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,600,000円、(間接経費) 2,280,000円

研究成果の概要(和文)：中越地震、東日本大震災後の子育て家族の有様を調査した。この結果、災害当初は祖母(母親の実母)が子育て家族をサポートしていること、災害後に夫婦関係が悪化したケースでは、母子のメンタルヘルスが不安定であり、孤立していることがわかった。シームレスな支援として、災害当初はヨガ等の心身をリラックスする支援、仮設住宅入所時は経済的な支援や医療、保育等の情報の提示、仮設住宅での生活後は子育て相談、子育て支援などを多職種がチームを組み、支援することが効果的であった。また、閉鎖的な地域で生活する家族は、行政等の支援者も親族であることも多く、インターネットや電話相談などの第三者の支援が必要であると示唆された。

研究成果の概要(英文)：Purpose: To clarify how disaster-affected families raising children have been rebuilding the family system since the Niigata and the Great East Japan Earthquake. Result: 1) Grandmother support disaster-affected family for a long time. 2) Worsened relationship between husband and wife was connected with unstable mental health of mother and child. 3) Problems faced by victims has changed along with the recovery process. Consideration: Our support programs 1) Physically and mentally relaxing programs such as yoga prepared immediately after the disasters; financial aid and information about medical service and the like provided when they moved in the temporary housing; and parenting counseling and child-rearing support offered since the life in the temporary housing has started. 2) Use of the Internet and counseling by phone because the supporting staff members of the local administration may be the relatives of the disaster-affected families in the closed local areas.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：災害看護 小児看護 家族支援 シームレス 祖母力

1. 研究開始当初の背景

近年、大規模災害が多数発生しており、年々その数は増加傾向である。日本においても阪神・淡路大震災以後、毎年、地震や水害、噴火災害等が報告され、私たち看護職者は誰もが災害時の看護支援に関わる可能性が高いことがわかる。災害看護に関する国内外の報告を見ると、災害看護構築に向けて事例検討、実践報告、調査報告など様々なジャンルの研究が積み重ねられている。著者らの研究からも、今後の災害看護の課題として、Seamless (シームレス) な看護の必要性、対象者を個人から家族単位としてとらえ支援することが重要であることがわかっていく。そして、この2点を実施することにより、被災者の QOL 向上につながることを示唆されている。被災体験のある家族は、被災後の生活再建をめぐる、環境や役割、社会的・心理的な状況の変化を伴う家族システムの変化を経験することとなり、この時期は健康危機が生じやすく、家庭の安定と健全な家族の再構築への支援が我々、看護職に求められる。

2. 研究の目的

被災体験をもつ家族の複合的でダイナミックな家族システムの変化を明らかにし、健全な家族の再構築を支援する具体的で実践可能なケアを提示することである。

3. 研究の方法

質問紙調査。インタビュー調査。アクションリサーチ。

4. 研究成果

1) 新潟中越地震災害が夫婦関係やストレス、子どものメンタルヘルスに与える影響と看護の明確化を質問紙調査によって明らかにした。調査対象者の多くは災害後も良好な夫婦関係を継続していた。しかし、多数ではないものの、災害後、配偶者と夫婦関係が悪くなった者のほうが有意に不安、抑うつ得点が高く、母親は「災害後、夫が頼りにならない」と感じていた。また、夫婦関係が悪化したケースの子どもは、その後に発生した災害時に必要以上におびえていた。さらに、重回帰分析から、母親のストレスに最も関連しているものとして「世間からの孤立感」があった。今後の看護として、夫婦間関係の調整を含めた支援の在り方を検討しつつ、母親の孤立を防止するような対策が必要であり、インターネット相談などの活用も検討が求められる。

2) 東日本大震災後、放射線災害を逃れるために福島県から県外に避難した子育て家族の生活再建のプロセスをインタビュー調査で明らかにした。結果、生活再建のプロセスを支えた人は母親の母(母方祖母)であり、生活再建を決定した要因は仕事の確保であった。生活再建へのプロセスでは、常に放射線への恐怖、偏見、差別に悩まされ、過酷な

状況が続いていた。そのような中でも、その家族ならではの家族アイデンティティを確立し、「うちの家族はこのような生活を選択してよかったのだ」という気持ちに変化していった。今後の支援として、看護のみならず、多職種が連携し、仕事の確保に努めるとともに、核家族のみならず、祖父母等を含めた家族支援が必要である。

3) 東日本大震災での被災者支援として、アクションリサーチを行った。子育て期の被災家族に対するシームレスな支援の検討しつつ、以下のような内容を実施した。行政、NPO法人などの多職種連携をしながら、ヨガ講座、Nobody's Perfect、Common Sense Parenting、おしゃべり広場、電話やメールでの子育て相談等を組み合わせた。震災直後から避難所での生活の時期はヨガを中心とした心身のリラクセスを提供、仮設住宅での生活がスタートした頃はNPやCSPなどの実際の育児支援とともに、電話やメールでの子育て相談を行い、慣れない土地での育児支援に心掛けた。この時期は、その土地の行政、NPO法人などの多職種が連携したことで、対象者が必要としているサービスをタイムリーに提供できた。

4) 発達障がい者(児)と災害時の対応に関する検討した。3)の支援の中で、発達障がい児を持つ家族の支援のむずかしさを痛感し、文献検討を行った。結果、災害時の福祉対策や災害時要援護者対策、発達障がい者に対する対策は始まったばかりで、これまでの災害から得た様々な知見を十分に活かした対策を立てていくことが急務であること、災害が生じたときの対策のみならず、普段から地域の中で発達障がいについて理解を深めておく必要があることがわかった。

5) 東日本大震災後、被災者、救援者のこころのケアに関するアクションリサーチとインタビュー調査を行った。日本赤十字社のこころのケア活動を展開する上で、初動体制の確立と経過、日赤としてはほぼ初めての試みとなった仮設住宅に転居した住民を対象とした中長期支援の課題と効果、日赤の教育訓練プログラムの実際と効果、教育訓練の在り方、意見や要望について継続して現在も調査を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

久保恭子 後藤恭一 穴戸路佳他: 新潟中越地震災害が夫婦関係やストレス、子どものメンタルヘルスに与える影響と看護, 小児保健学会誌 72(6) 査読あり, 804 - 809, 2013.

久保恭子 宍戸路佳 坂口由紀子他：子育て期の被災家族に対するシームレスな支援の検討,東京学芸大学紀要 総合教育科学系 65 査読なし,375 - 381,2014.

坂口由紀子 久保恭子 田崎知恵子他：重症心身障がい児に携わる看護職の防災に関する意識調査,日本医療科学大学紀要 第1巻 査読あり,19 - 25,2014.

田崎知恵子 久保恭子他：乳幼児の看護に携わる看護職の防災に関する意識,日本災害看護学会誌 14(2)査読あり,35-48, 2013.

前田潤：2000年有珠山噴火10年後の影響意識調査-伊達赤十字病院での患者アンケート,日赤医学 63(1) 査読なし,125, 2011.

前田潤 齋藤和樹 榎島敏治：東日本大震災におけるこころのケア活動の立ち上げ-石巻赤十字病院例,日赤医学 63(1) 査読なし,157, 2011.

齋藤和樹 前田潤 榎島敏治 阿部幸子 東智子：日赤と臨床心理士とのコラボによるこころのケア活動(速報),日赤医学 63(1) 査読なし,156, 2011.

前田潤：医療機関からの支援要請-日本赤十字社からの要請,臨床心理学 査読あり,494-498,2011.

前田潤 田中雄大 阿部幸子 佐々木暁子 齋藤和樹 榎島敏治：東日本大震災日赤こころのケアセンターに見る組織的展開の特徴と今後の課題,日赤医学 64(1) 査読なし,115, 2012.

前田潤 他：緊急事態での心理社会的支援体制(3)-東日本大震災における日本赤十字社発災直後例,室蘭工業大学紀要 62 査読あり,113-123, 2012.

前田潤：震災復興に向けての心理劇,心理劇 17(1),3-8, 2012.

前田潤 齋藤和樹 榎島敏治他：東日本大震災での中長期支援-仮設住宅への心理社会的支援の実際と課題,日赤医学 65(1) 査読なし,114, 2013.

青柳宏 齋藤和樹 前田潤：東日本大震災での心理社会的支援活動-研修の在り方とこころのケア活動の実態,日赤医学 64(1) 査読なし,114, 2013.

前田潤 齋藤和樹 榎島敏治 下本桂子：震災後の産業現場での中長期的なメンタルヘルス支援 心理社会的観点から見る中長期的支援,産業ストレス研究 20(4) 査読あり,337-340, 2013.

〔学会発表〕(計19件)

久保恭子他：産科・小児科病棟で勤務する看護職の防災意識と行動,日本災害看護学会第12回(福井),2010.

久保恭子他：乳児を持つ母親の防災意識-被災体験の有無による差-,日本健康心理学会第23回年次大会(千葉),2010.

久保恭子他：乳幼児を持つ親の防災意識の特徴,第57回日本小児保健協会学術集会(新潟),2010.

久保恭子他：乳幼児の看護に携わる看護職の防災に関する意識,第51回母性衛生学会(金沢),2010.

久保恭子他：Distinction of Disaster Refuge of Nursing Staff in Maternity and Pediatrics Departments,第2回日中韓看護学会(東京),2010.

久保恭子他：地震災害後の子育て期の家族の特徴-災害後6年が経過して-,第18回日本家族看護学会(京都),2011.

久保恭子他：災害が子育て期の母親の精神健康状態と子どもに与える長期的な影響,第58回日本小児保健協会学術集会(名古屋),2011.

久保恭子他：新潟中越地震後6年、震災が子どもと家族に与える影響,日本災害看護学会第13回年次大会(埼玉),2012.

久保恭子他：地震災害6年後の母親のストレスと子どもとの関係,第52回母性衛生学会(京都),2011.

久保恭子他：Clarification of Factors

related to Mothers' Mental Health after Earthquake Disaster, I C Mアジア大会 (ベトナム), 2012.

久保恭子他: 被災した乳幼児をもつ母親に対するシームレスな支援の試み, 日本災害看護学会第14回年次大会 (名古屋), 2012.

坂口由紀子他: 重症心身障害児・者をケアする 看護師の防災に関する意識 自由記述の分析から, 第59回日本小児保健協会学術集会 (岡山), 2012.

穴戸路佳他: 重症心身障害児・者をケアする 看護師の防災に関する意識 看護管理者とスタッフ看護師の差, 第59回日本小児保健協会学術集会 (岡山), 2012.

及川裕子他: 三宅島噴火災害の被災体験 - 全島避難から現在までの体験の語りを通して -, 第32回日本看護科学学会 (東京), 2012.

久保恭子他: Situation of Families with Infants after the Great East Japan Earthquake and Discussion, 第3回アジア国際家族療法学会 (シンガポール), 2012.

久保恭子他: Changes over time in mothers' anxiety about radiation disaster and their actions, 国際家族看護学会第11回大会 (ミネアポリス), 2013.

穴戸路佳他: A 県における保育専門職者の防災に関する意識, 日本災害看護学会第15回年次大会 (札幌), 2013.

久保恭子他: 福島第1原子力発電所事故を巡る、福島県の乳幼児をもつ家族の生活再建への移行と課題, 第54回本母性衛生学会 (大宮), 2013.

前田潤: 2000年有珠山噴火10年後の影響意識調査-伊達赤十字病院通院患者アンケート, 第16回日本集団災害医学会総会・学術集会, 2010.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.family-heal th.jp/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%A0%B1%E5%91%8A/%E7%81%BD%E5%AE%B3/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A0%B1%E5%91%8A/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保 恭子 (Kyoko KUBO) 横浜創英大学・看護学部・教授

研究者番号: 10320798

(2) 研究分担者

田崎 知恵子 (Chieko TAZAKI) 日本保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号: 00389892

(3) 研究分担者

倉持 清美 (Kiyomi KURAMOCHI) 東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号: 30313282

(4) 研究分担者

岸田 泰子 (Yasuko KISHIDA) 共立女子大学・看護学部・教授

研究者番号: 60294237

(5) 研究分担者

及川 裕子 (Yuko OIKAWA) 園田学園女子大学・健康科学部・教授

研究者番号: 90289934

(6) 研究分担者

田崎 知恵子 (Chieko TAZAKI) 日本保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号: 00389892

(7) 研究分担者

前田 潤 (Jun MAEDA) 室蘭工科大学・工学研究科・准教授

研究者番号: 90332478

(8) 研究分担者

坂口 由紀子 (Yukiko SAKAGUCHI) 日本医療科学大学・保健医療学部・講師

研究者番号: 00438855

(9) 連携研究者

穴戸路佳 (Mika SHISHIDO) 横浜創英大学・看護学部・助教

研究者番号: 90505554